

地図作品展をととした大学と地域社会との協働ネットワーク 「彩の国環境地図作品展」の実践

Co-operation Network Making between University and Regional community through the Map Work Exhibition

亀井 啓一郎 [1]; 原 美登里 [2]; 鈴木 厚志 [3]

Keiichiro Kamei[1]; Midori Hara[2]; Atsushi Suzuki[3]

[1] 立正大・地球環境; [2] 立正大・地球環境・地理; [3] 立正大・地球・地理

[1] Geo-environmental Science, Risscho Univ.; [2] Geography,Risscho Univ.; [3] Geography, Risscho Univ.

1 研究目的

自らの観察や調査によって構成された心象は、視聴覚教材等によって得られたものより狭い地域範囲にとどまる。しかし、観察や調査に基づき得られた内容には、深さと多角的側面が備わり、子どもたちが身近な地域を認識する基礎となる。このようなことが指摘されてきたにもかかわらず、実践する組織や評価・展示のための仕組みを十分に構築してきたとはいえない。本発表は6年目を迎えた「彩の国環境地図作品展」の実践報告である。これにより、地図・地理教育の基礎を視座に据えた大学と地域社会との協働ネットワークづくりの一端を紹介したい。

2 「彩の国環境地図作品展」の組織と概要

「彩の国環境地図作品展」は、2002年度に埼玉県内の小・中・高・特殊教育諸学校に在籍する児童・生徒を対象として開始した。当時、立正大学地球環境科学部と埼玉県北部地域創造センターは、県の推進する「職・住・遊・学」拡充戦略の一つにこの地図作品展を位置付けた。そのため、当初より埼玉県や埼玉県教育委員会、熊谷市教育委員会、地元の現職教員、生涯教育施設の方が実行委員として参加している。

後援団体としては、埼玉県やさいたま市、教育委員会、公益法人、地理学・地図学系学会に協力を依頼している。また、東京電力(株)埼玉支店には、特別協賛として発表会・表彰式の会場を提供頂いている。

「彩の国環境地図作品展」の年間日程はおおよそ以下の通りである。5月から6月にかけて、埼玉県内の小・中・高校や生涯教育施設などに作品募集のポスター・チラシを配布し、作品応募を呼びかけている。作品の受付は9月中旬から下旬である。10月に作品審査となる実行委員会を開催し、11月から翌年3月にかけて、発表会・表彰式と作品展示会を開催している。なお、この地図作品展の事業経費は、立正大学地球環境科学部予算と同大学院にて実施するオープンリサーチセンター経費から支出されている。

3 地域協働ネットワークづくり

産官学協働事業の事例を示す。「彩の国環境地図作品展」の作品募集の一環として、「地図づくり教室」を開催している。開催当初は、立正大学地球環境科学部の施設のみで観察・調査・地図作成のすべてを行っていた。2004・2005年度は埼玉県自然学習センターで開催し、2006年度は埼玉県環境科学国際センターで開催している。「地図づくり教室」では各施設において観察・調査をもとに地図を作成し、発表の場を設けている。

入賞作品については、発表会・表彰式を開催し公表している。発表会・表彰式は、東京電力(株)の普及施設 TEPCO SONICで開催している。作品の展示は TEPCO SONIC・埼玉県環境科学国際センター・埼玉県立川の博物館・立正大学熊谷キャンパスにて行い、入賞作品だけでなく、できるだけ多くの作品を公開できるよう配慮している。このように、発表会・表彰式と作品展示においても地域社会との協働体制を推進している。

4 作品の特徴

2006年度の応募は84作品であった。内訳は小学生28作品、中学生43作品、小・中学生共同によるものが1作品、中・高校生共同によるものが1作品、高校生6作品、養護学校5作品である。これらのうち12作品を入賞作品として選出した。入賞作品は、いずれも身近な環境や地域の姿を自ら観察・調査することを実践した質の高い作品である。このような作品は増える傾向にある。主な入賞作品と作品の特徴および傾向はポスターにおいて報告する。